

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	設計事務所（経営者）	・利益率向上に伴う賃上げの実現が、業界や社会全体で進めば、身の回りの景気向上が期待できる。
	○	商店街（代表者）	・若い経営者が空き家を借りて開業するようになって、私たちのような昔ながらの販売方法とは違う形で、客集めに奔走している。将来が楽しみである。
	○	高級レストラン（経営者）	・人の動きは良くなってきているが、物価高騰の影響はまだ残っている。さほど良くはならないだろうが、やや改善するとみている。
	○	観光型旅館（経営者）	・予約状況からみてやや良くなると判断している。また、当社では3か月後の値上げ実施を表明している。利用者からは、おおむね理解し、受け入れてもらえる流れになっている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・今年度は多くのイベントが予定されていることもあり、先の予約は堅調に推移している。円安による物価高、コスト高が止まらない状況ではあるものの、それとは裏腹に人の動きに大きな変化はない。イベント開催の分、プラスで推移していきそうである。
	○	観光名所（職員）	・物価高や宿泊費の高騰はあるものの、夏に入り、国内客や外国人観光客が増加傾向にある。過度な期待はできないが、観光客は戻りつつある。
	○	遊園地（職員）	・学生の夏季休暇期間に加え、音楽イベントの開催も控えていることから、学割キャンペーンの実施や積極的な情報発信を通じて、更なる来園者数の増加を見込んでいる。
	□	商店街（代表者）	・秋の行楽シーズンから年末の贈答シーズンを迎えるが、9月からの値上げの連絡をみると、買い控えが起きるのではないかと不安である。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	・新たな省エネ基準が開始される関連で、家電製品に多少の風は吹いているものの、省エネ基準を満たさない安価な商材に集中している傾向が見られる。最終的に省エネ基準適合商材が普及してくるまでには時間が掛かるとみているが、目先の売上は伸びている。ただし、先は見えない。
	□	百貨店（経理担当）	・9月から特に食品で多くの品目の値上げが予定されており、消費の冷え込みが想定される。このところ、高額品が売れる一方で、デイリーユースが伸び悩んでおり、高所得者と一般消費者の消費の2極化がうかがえる。世界情勢も依然として混とんとしており、小売における消費拡大は期待できない。
	□	百貨店（営業担当）	・変わらないというよりは、分からない。今後も物価は再び食品を中心に上昇するし、中東情勢も不透明である。円安がまた進んでしまうのかなど、いろいろな不安材料があるため、余り良くなる傾向とは考えにくい。
	□	スーパー（経営者）	・米価は下がっているが、この秋も多くの商材価格が上昇する見込みである。実感として物価が上がったことに、客がどう反応するか気掛かりである。
	□	スーパー（経営者）	・良くなるような材料はないが、何とか来ている仕事をこなしていきたい。
	□	スーパー（店長）	・物価高の状況は変わらない。
	□	コンビニ（経営者）	・段々と天候が寒くなり日も短くなるため、冷たい商材が売れず、来客数は伸び悩む。売上の的には厳しい状態になっていく。
	□	コンビニ（経営者）	・最初は落ち込むが、年末商戦に向けて徐々に戻るとみている。
	□	コンビニ（経営者）	・気温が下がるにつれて、夏に売れていた商材は売れなくなってくる。米価が下がることで米飯等の商材も手が出しやすくなることに期待している。
	□	コンビニ（店長）	・中東情勢やウクライナの情勢等の影響により、いろいろな物が入荷しなくなり、全体的に価格が上がってきているが、景気自体は変わっていくような状況ではない。
	□	家電量販店（店長）	・年々、来客数が減少している。
	□	乗用車販売店（経営者）	・受注残が売上につながり、しばらくは販売台数、売上については安定的に伸びると期待できる。

□	一般レストラン（経営者）	・よほどの物価の低下や賃金上昇がない限り、現状のやや悪い状態が続く。
□	一般レストラン（経営者）	・やや良くなっている動きのまま、変わらない。
□	スナック（経営者）	・お盆前もさほど忙しくはなかったが、お盆明けは一気に暇になって、毎日が暇である。いつも繁盛している居酒屋に聞いてみても、お盆明けは本当に暇だという話なので、やはり、景気が悪いのかと実感している。今後も期待できる材料は余りない。
□	観光型旅館（経営者）	・今まで団体旅行は減退の一途だったが、一昔前ほどではないものの、今年の秋は団体旅行が増えている。また、今年は9月の大型連休と、11月の勤労感謝の日が連休になっているため、秋の売上が増えている。
□	都市型ホテル（スタッフ）	・単月で8月は過去最高の売上になったが、9月に関してはそこまではないものの、前年実績の20%増加ほど客室予約が入っている。客室単価が高くて購入してくれることを実感している。特に、9月の大型連休は好調に販売できている。
□	旅行代理店（副支店長）	・団体旅行の今後の受注状況は前年とほぼ同じである。一方で、個人客の動きは悪く申込みも減少している。物価上昇による旅行費用の値上げも影響している。
□	タクシー運転手	・当地のタクシー運賃が来月から値上げになる。およそ1割の値上げ見込みで、今後は客が減らなければ、期待できそうである。
□	通信会社（社員）	・新規サービス提供エリアでの加入も安定しているため、しばらくはこのまま推移していく。
□	通信会社（社員）	・物価高の影響は相変わらずで、商材価格が上がっても利益に還元されることはなく、コストの上昇分を吸収できるようになるとは考えにくい。
□	ゴルフ場（副支配人）	・プレーヤーの高齢化や物価上昇に終わりがみえず、厳しい状況が続く。
□	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	・団体利用が減少傾向にある点が気になるが、その分を一般客で盛り返している。
▲	百貨店（店長）	・近隣店舗のリニューアルオープンを控え、一時的にはあるが、多少の来客数減少が懸念される。
▲	スーパー（企画担当）	・賃上げやボーナスの増額等で多少財布のひもが緩んだかもしれないが、物価上昇が継続すれば、再び財布のひもが固くなる。
▲	コンビニ（経営者）	・8月の繁忙期と違い、11月はイベントや年末商材もないため、やや悪くなる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・10月から最低賃金が50円以上引き上げられるが、前年と同様にこれで生活が楽になるとは全く考えられない。
▲	自動車備品販売店（従業員）	・今後の値上げで、来客数が落ち込むとみている。
▲	その他専門店〔酒〕（店長）	・物価上昇と周りの経済状況が重なって、どのような影響があるかは分からないが、良くはならない。今後、失業等が増えてくるとやや良い動きも帳消しになる。今年の米価は非常に安い、こうした点を皆がどういう風に捉えるか次第である。マイナスに捉えると影響は大きくなる。総合的にはやや悪くなると判断している。
▲	スナック（経営者）	・物価高で財布のひもが固い。そう簡単には良くなれないと考えている。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	・例年8月がピークで、ここから少し悪くなっていく。平均単価を上げたこともあり、来客数の動きが減少すると予想している。
▲	ゴルフ場（経営者）	・高齢化によって稼働会員数の減少が始まっている。全体の経済指標ではなく、地域イノベーションによって1人当たりの豊かさを増やすような取組が求められていると考える。
×	商店街（代表者）	・店舗が入れ替わるのは、物販店から飲食店に変わるのみで、昼間のにぎやかさは望めない。
×	スーパー（副店長）	・余りにも災害が頻繁に起こり、ぜいたくに対する自粛傾向がみられる。また、秋からの値上がり品目もかなり多く、現状より更に買い控えが進む。

	×	コンビニ（経営者）	・人件費の増加やエネルギー高による経費の圧迫で、中小企業は非常に厳しい状態である。特に、コンビニのようなフランチャイズ契約の場合、本部へのチャージは経費が増えても変わらず、アルバイト従業員は最低賃金引上げで守られ、事業主は毎年経費が上がるのみで、限界が近づいている。
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	金属製品製造業（総務担当）	・半導体の需給が回復し、良くなる。
	○	食料品製造業（営業統括）	・本来夏場には落ち込む売上がやや上向きで推移したため、今後はやや良くなるのではないかと。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・2～3か月先まで受注できているため、景気は良くなる。原材料は一部で値上がりは止まり、また、一部で値下げされている。
	○	電気機械器具製造業（従業員）	・受注につながるような問合せが結構来ている。受注できれば、景気は良くなるとみている。
	□	食料品製造業（総務担当）	・原材料価格の高騰が変わらなければ、現状のままと考える。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・新製品の展開もあり、期待は持てる。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・為替介入はあったものの、円安水準は変わらない。調達コストは下がり、相変わらず生活防衛意識が強いため、耐久消費財への支出が伸びてこない。
	□	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・円安の影響により、材料や素材の価格が毎月のように上昇している。催事売上の好調は、ヘビーユーザーの購入や製品価格の上昇によるところが大きく、顧客の購入率の下降は止まっておらず、先行きの見通しは決して明るくない。
	□	建設業（経営者）	・全体の景気が少しずつ良くなることを期待している。
	□	金融業（調査担当）	・製造業では引き続きA I 関連の需要が底堅く、I T 関連も持ち直しの動きが続くと予想される。非製造業では物価高に伴う消費者の支出抑制が継続し、弱めの動きが続く。
	□	金融業（経営企画担当）	・中東情勢はこのまま不安定な状態が続くと考えている。物価高騰に歯止めがかからないこと等を勘案して、現状維持だと予測する。
	▲	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・10月にまた紙代が上昇するが、取引先への価格転嫁は依然として厳しい状況である。
	×	食料品製造業（製造担当）	・原料価格高騰で更に値上げをしていかないといけないため、非常に厳しい。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—
	○	職業安定所（職員）	・有効求人倍率が上昇していることや求人数が伸びていることから、やや良くなる。
	□	職業安定所（職員）	・食料品等の秋～冬にかけての値上げが心配であるとの求職者の声や、長引く中東情勢を理由として、人材確保の動きが低調な状況が直ちに好転するとは考えにくい。
	□	職業安定所（職員）	・製造業では新規事業に伴う増員の動きから、求人数が増加している。一方、中東情勢の影響を受けて厳しい状況にある業種も存在し、全体としては横ばいで推移している。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・最近の派遣契約更新者の相談内容から、今まで以上に求職活動は今後の景気動向に左右されるとみている。
	▲	民間職業紹介機関（経営者）	・円安傾向や物価高に賃金が追いつかず、先行き不安が続く。
	×	—	—